

東南置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会「中間報告書」に係る地域説明会
【高畠町会場】 記録要旨

1 日 時 平成 30 年 2 月 15 日 (木) 19:00~20:15

2 場 所 浜田広介記念館 (高畠町大字一本柳 2110)

3 出席者 地域の方々 14 名

県教委 津田教育次長、須貝高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室長補佐
小野高校改革主査、奥山高校改革主査、小池指導主事

4 内 容 須貝室長から概要説明後、質疑応答

5 質疑応答概要

(質問・意見)

アンケートなどソフト面からの分析があったが、校舎の老朽化に対応して、10 年後、20 年後のハード面の整備はどうなっていくのか。

(県教育庁)

東南置賜地区の県立高校の安全性について、校舎は 100%耐震化されている。老朽化の状況は、建築年度により様々であるが、地区内高校の校舎は比較的新しい。米沢東高校は、増築した部分もあり比較的新しい棟がある。米沢商業高校は古い校舎もあるが耐震化されている。長寿命化の方針により、公共施設は新設するよりも、今あるものを長く使うという方向性になっている。耐震性のある校舎を捨てて、新しい校舎をつくるのは難しい状況だ。

(質問・意見)

中高一貫教育についてはメリット、デメリットの両面があると思うが、開校して 2 年目となる東桜学校中学校・高等学校の現在の状況について伺いたい。

(県教育庁)

東桜学館中学校の平成 30 年度の志願倍率は 2.24 倍で、募集人員 99 名に 222 名が志願している。入学を希望する子どもは比較的多いが、大都市の中高一貫校のような 5~10 倍の高倍率にはなっていない。生徒は、入学後学習に前向きに頑張っているようである。一般の中学校と比較する学力試験の結果はないが、勉強が好きな前向きな生徒が多く、学力の平均を測れば良好であると思われる。高校入試がない分、ゆとりある 6 年間の中で、探究的、体験的な学びを通し、社会性を身に付けたり個性を伸ばしたりすることができることを学校の理念としている。本県は始まったばかりであるが、他県の中高一貫校では、上位層が厚く、大学進学実績が上がっているケースもある。もちろん、これが目的ではないが、結果として成果が出ている。

(質問・意見)

新しい高校の配置が決まるのはいつか、知りたい。

(県教育庁)

今後のスケジュールは、今年 6 月に検討委員会の報告書が提出され、教育庁内の検討を経

て、再編整備計画策定は平成 31 年の 3 月以降を予定している。中期的な再編は平成 36 年度を目途としているが、前後する場合もある。統合した学校がどの校舎を使うか、どのような教育をするかで、準備期間は変わってくるが、本県の前例だと開校まで、酒田光陵高校で 7 年、村山産業高校で 4 年、東桜学館中学校・高等学校で 6 年かかっている。これを踏まえると、平成 36、37 年度頃になるだろう。その後の長期的なところは、先に行けばいくほど不確定要素があり、今は何とも言えない。

(質問・意見)

私は幼少の子をもつ親であり、自分の子が高校 3 年生のとき、第 6 次教育振興計画最後の年の平成 36 年を迎えるので、今後どのようなようになるか気になっている。

(県教育庁)

計画的な統合や学科の廃止、学級減は、入学前に分かるようにしているし、今後もそうしていく。

以上